

令和7年度 杉並区事務事業評価シート

事務事業名称	青少年育成							款 04	項 02	目 01	事業 005	整理番号	218
現担当課名	児童青少年課				係名	青少年係			連絡先電話番号	4402	昨年度整理番号	226	
上位施策No・施策名	19	子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分		既定事業		
事業開始	昭和29年度		分野	06	施策	19	計画事業						
令和6年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分		一般			

令和6年度 事務事業の概要（Plan）

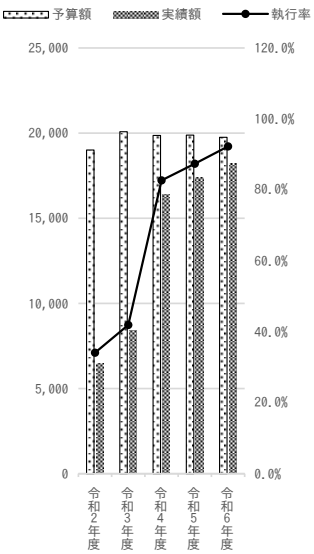
対象	根拠法令等
区内在住・在学・在勤の25歳未満の青少年と、その健全育成を目的に活動する地域団体	杉並区青少年育成委員会補助金交付要綱 杉並区青少年善行表彰要綱
事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	事業内容（事務事業の内容、やり方、手段）
○区内17団体ある青少年育成委員会などの地域の青少年健全育成の活動を助成し、これらの団体が行う事業活動を通して子どもたちの健全育成を推進する。 ○善い行いをした青少年及び団体を表彰することにより、善行の気運醸成を図る。	○青少年健全育成団体に対して、補助金または事業共催分担金を支出する。 ○青少年によるボランティア活動や地域協力などの善行に対し、表彰を行う。 ○青少年の健全育成に資する行事の開催または開催を支援する。

指標、総事業費（Plan・Do）

指標名		指標説明	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	青少年育成委員会の総事業数	共催事業も含む	件	計画	400	400	136	136
				実績	109	114	121	-
				達成率	27.3%	28.5%	89.0%	-
	共催事業の実施回数	すぎなみ舞祭とスカウト連絡会との共催事業の数	回	計画	12	12	9	9
				実績	10	9	10	-
達成率				83.3%	75.0%	111.1%	-	
成果指標	青少年育成事業への参加者数	青少年育成委員会の事業と、区共催事業への参加者数の合計	人	計画	101,650	101,650	100,940	100,940
				実績	50,830	67,637	83,525	-
				達成率	50.0%	66.5%	82.7%	-
	分類	行政サービス成果指標						
	青少年善行表彰の表彰者数	善行表彰を受けた個人と団体の構成人数の合計	人	計画	1,000	1,000	1,000	1,300
				実績	463	777	1,000	-
				達成率	46.3%	77.7%	100.0%	-
分類	行政サービス成果指標							

		単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費		千円	予算額	19,008	20,081	19,863	19,882	19,754	19,503
			実績額	6,482	8,419	16,422	17,371	18,224	-
			執行率	34.1%	41.9%	82.7%	87.4%	92.3%	-
人件費	常勤職員分（再任用含）	千円	予算額	19,180	17,006	20,023	21,627	21,765	21,390
			実績額	22,873	25,613	31,109	24,360	27,465	-
			執行率	119.3%	150.6%	155.4%	112.6%	126.2%	-
	上記以外の職員	千円	予算額	6,468	5,442	5,513	5,517	5,711	6,965
			実績額	6,893	5,145	6,620	6,472	9,750	-
			執行率	106.6%	94.5%	120.1%	117.3%	170.7%	-
総事業費（事業費+人件費）		千円	予算額	44,656	42,529	45,399	47,026	47,230	47,858
			実績額	36,248	39,177	54,151	48,203	55,439	-
			執行率	81.2%	92.1%	119.3%	102.5%	117.4%	-
財源	受益者負担分	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	国・都からの補助金	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	その他の補助金等	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	特定財源（①+②+③）	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
差引：一般財源（総事業費-特定財源）		千円	予算額	44,656	42,529	45,399	47,026	47,230	47,858
			実績額	36,248	39,177	54,151	48,203	55,439	-
			執行率	81.2%	92.1%	119.3%	102.5%	117.4%	-

事業費の年度推移



特記事項

青少年育成委員会の活動は、コロナ禍を経て、事業の見直しや廃止が行われたため、関連する活動指標「青少年育成委員会の総事業数」と成果指標「青少年育成事業への参加者数」は、令和6年度より計画値を修正しています。

令和6年度 事業実施状況（Ｄ○）			整理番号	218
主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	青少年育成委員会への補助	17	件	15,714
	すぎなみ舞祭への分担金の支出	1	回	1,400
	青少年善行表彰の実施	1	回	593
	スカウト連絡会との共催事業分担金の支出	1	回	440
	その他（ 青少年育成委員会に係る備品、消耗品の購入 ほか		）	77
取組成果	地域における青少年の健全育成の中心的役割を担う青少年育成委員会では、地域の子どもたちを対象に121事業を区の補助金を原資に実施し、延べ82,639名が参加したほか、分担金を支出したすぎなみ舞祭とスカウト連絡会との共催事業の2事業には約900名の参加者があり、いずれも子どもたちの健全育成に資する貴重な体験と経験の機会を提供することができました。各地域で実施されるこれらの事業には、年少者のお手本役や運営の手伝い等として青少年が参加することもあり、その取組を善行表彰として推薦いただくことが増えています。結果として、善行表彰の表彰者数増にも繋がっていることから、青少年を対象とした事業は善行の機運醸成にも好影響を及ぼしていると考えます。			

課題の分析、方向性・改善策（Check・Action）

課題の分析	青少年育成委員会は、区内全域を17地域に分け、地域住民を中心に組織されたボランティアで活動する任意団体であり、これまで長年に渡り青少年の健全育成に資する取組を続けてきました。コロナ禍を経て、実施事業の整理統合や実施方法の見直しのほか、新規事業を実施するなど、各育成委員会で工夫を凝らしながら補助金を有効活用することと、地域の子どもたちの健全育成に寄与しています。一方で委員の高齢化や新規加入者の不足など、各育成委員会共通の課題もあり、今後も安定した活動が継続されるよう必要の支援を行っていく必要があります。青少年善行表彰は、表彰者数が増加し続け、コロナ禍前の表彰者数に近付いています。これは地域事業が再開されたことと起因するものと考えられますが、コロナ禍以前の表彰者数を超えても微増が続くと考えています。また、表彰を受けることで青少年が自ら進んで継続的に善行に取り組むきっかけとなっており、推薦者や学校関係者からも肯定的に捉えられています。
現年度の取組成果・予算執行状況（年度末までの見込み含む）	青少年育成委員会補助金については、令和7年度当初予算額の約98%にあたる合計16,581千円の申請が全17団体からありました。各団体では、補助金を原資に青少年の健全育成を目的とする事業を多数計画・実施しています。これらの事業ではその運営にも子どもたちがボランティアとして参加することが多くなっており、こうした青少年の自発的な活動が増加傾向にあることから、青少年善行表彰への推薦および被表彰者数も増加することが見込まれます。分担金を支出する共催事業としては、杉並スカウト連絡会と開催している「わくわくフィールドSUGINAMI」を区内各地域で年間を通じて全13回予定しているほか、区が実行委員会事務局を担う「すぎなみ舞祭」を10月に開催する予定です。
事業の方向性・改善策	地域における青少年の健全育成を進めるためには、青少年育成委員会をはじめとした青少年育成を目的に活動している団体や事業に対する運営支援と活動支援が今後必要不可欠です。関係団体に対しては、既存の事業内容に採られることなく、今の青少年を想定して、時代に即した内容や規模での事業実施を求めながら、引き続き、次代を担う青少年のために必要な支援が行えるように努めていきます。

令和8年度の方針（Action）

Ⅰ. 事業コストの方向性	現状維持
Ⅰ. 事業コストの方向性の理由	補助金や分担金を支出している関係団体のほとんどが自己資金を持たないボランティア団体であり、今後も団体とその活動を維持するためには、運営支援を継続する必要があります。また、一部の青少年育成委員会から補助上限額を増額してほしい旨の要望があるものの、コロナ禍以降の補助金執行率は90%台後半で安定しており、現状維持が適切と考えています。青少年善行表彰は、青少年の自発的な善意を表彰するものであり、被表彰者数の増加は事業の成果と比例します。関係団体等が開催する地域イベントへ青少年のボランティア参加が増えるなど、制度趣旨の周知が進み、推薦数が増加することでも被表彰者数は増加することから、今後も善行表彰に要する経費は微増していく見込みです。
Ⅱ. 事業の改善の方向性	現状維持
Ⅱ. 事業の改善の方向性の理由	青少年の健全育成に寄与する関係団体を支援することで各種のイベントや活動が活発化されるなど、地域における青少年の健全育成に一定の成果を挙げています。関係団体のほとんどが自己資金を持たないボランティア団体であるため、今後も補助金や分担金における支援が必要です。善行表彰は、制度の周知を継続することで推薦数が増え、被表彰者数も増加します。青少年の自発的な善意を表彰することで、その健全な育成に寄与することを目的としていることから、これまで通りの取組を継続していきます。

令和7年度 杉並区事務事業評価シート

事務事業名称	青少年の自立応援・社会参加事業						款 04	項 02	目 01	事業 006	整理番号	219
現担当課名	児童青少年課				係名	青少年係		連絡先 電話番号	4402	昨年度 整理番号	227	
上位施策No・施策名	19	子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分	既定事業		
事業開始	昭和25年度		分野	06	施策	19	計画事業					
令和6年度 担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般			

令和6年度 事務事業の概要（Plan）

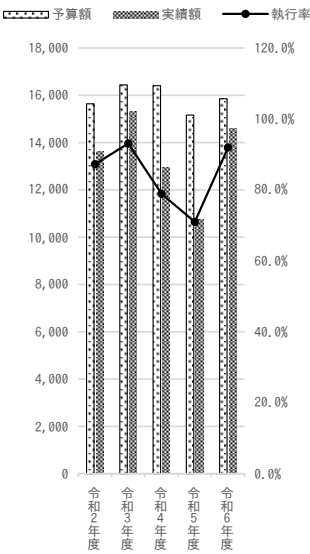
対象	根拠法令等
区内在住・在学・在勤の25歳未満の青少年	二十歳のつどい実施要綱
事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	事業内容（事務事業の内容、やり方、手段）
○青少年が、社会を構成する主体として自覚を持った成人に成長するよう支援する。	○二十歳という節目の年に改めて成人であることの自覚と自立を促し、次代を担う青年への期待と励ましを伝えるために「二十歳のつどい」を成人の日に開催する。

指標、総事業費（Plan・Do）

指標名		指標説明	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	「二十歳のつどい」式典実施回数		回	計画	3	3	3	3
				実績	3	3	3	-
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	-
				計画	-	-	-	-
				実績	-	-	-	-
			達成率	-	-	-	-	
成果指標	「二十歳のつどい」参加者数	式典当日の参加者数	人	計画	2,200	2,200	2,200	2,200
				実績	2,089	2,253	2,293	-
				達成率	95.0%	102.4%	104.2%	-
	分類	行政サービス成果指標						
			%	計画	-	-	-	-
				実績	-	-	-	-
達成率				-	-	-	-	
分類								

		単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費		千円	予算額	15,639	16,440	16,405	15,162	15,852	16,030
			実績額	13,641	15,304	12,943	10,759	14,577	-
			執行率	87.2%	93.1%	78.9%	71.0%	92.0%	-
人件費	常勤職員分 （再任用含）	千円	予算額	8,718	13,605	13,349	9,982	10,045	12,834
			実績額	11,224	13,766	8,318	10,380	11,551	-
			執行率	128.7%	101.2%	62.3%	104.0%	115.0%	-
	上記以外の職員	千円	予算額	1,540	1,814	1,838	1,839	1,904	2,322
			実績額	2,902	1,838	1,839	1,904	1,857	-
			執行率	188.4%	101.3%	100.1%	103.5%	97.5%	-
総事業費 （事業費+人件費）		千円	予算額	25,897	31,859	31,592	26,983	27,801	31,186
			実績額	27,767	30,908	23,100	23,043	27,985	-
			執行率	107.2%	97.0%	73.1%	85.4%	100.7%	-
財源	受益者負担分	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	国・都からの 補助金	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	その他の 補助金等	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	特定財源 （①+②+③）	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
差引： 一般財源 （総事業費-特定財源）		千円	予算額	25,897	31,859	31,592	26,983	27,801	31,186
			実績額	27,767	30,908	23,100	23,043	27,985	-
			執行率	107.2%	97.0%	73.1%	85.4%	100.7%	-

事業費の年度推移



特記事項

事業費が前年度に比較して大きく増加していますが、事業規模や予算額が大きくなったのではなく、令和5年度の「二十歳のつどい」に関わる委託費の契約落差額が他の年に比べて大きかったことによるものです。

令和6年度 事業実施状況（D o）				整理番号	219
主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）	
	「二十歳のつどい」実施運営業務委託	1	件	9,892	
	「二十歳のつどい」出演者に関する美術芸能委託	1	件	1,991	
	「二十歳のつどい」警備・誘導業務委託	1	件	1,085	
	「二十歳のつどい」会場等の賃借	1	件	1,324	
	その他（ 「二十歳のつどい」実施に伴う消耗品の購入、案内通知の発送ほか			285	
取組成果	「二十歳のつどい」は20歳を迎える区内に住民登録のある方と、過去に区内在住・在学歴があり、式典への参加を希望する方を対象に開催しています。式典では公募により希望のあった7名の参加者にご登壇いただき、将来の夢や目標、両親への感謝の気持ち等を発表いただくなど、20歳としての自覚と自立を持つきっかけとなるほか、旧友との交流の機会として喜ばれています。また、今後の実施内容に当事者の意見を取り入れるためのアンケートを実施し、多くの意見を聴取できました。				

課題の分析、方向性・改善策（Check・Action）

課題の分析	令和6年度の「二十歳のつどい」参加者は対象者の約43%にあたる2,293人でした。過去10年間の参加者の割合も40%～50%で推移しており、参加者数は大きく変動していません。参加者からは人生の節目となる式典に参加したことで、大人としての自覚を持つきっかけとなった、自分を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちが芽生えた、などの意見が毎年聞かれており、式典の開催は、社会を構成する青年の成長と自立に寄与するものと考えます。一方、「こども基本法」では、年齢等に応じた子どもの意見表明の機会の確保等が掲げられ、子ども等の意見を反映させるために必要な措置を行うことが義務付けられたほか、区で定めた「子どもの権利に関する条例」においても、意見を聞かれる権利等が保障されています。こうした趣旨を踏まえ、20歳を対象とした「二十歳のつどい」についても、参加者の意見の聴取方法や反映方法を改めて検討する必要があります。
現年度の取組成果・予算執行状況（年度末までの見込み含む）	今年度も昨年度と同様に成人の日に杉並公会堂で「二十歳のつどい」を開催します。対象者は約5,400人、当日の参加者は約2,500人を見込んでおり、同じ内容の式典を3回に分けて行います。6月には式典の実施内容に対象者の意見を反映するための意見聴取の場として、参加者ミーティングを実施しました。そこで得た意見を基に今年度の実施内容の一部を昨年度から変更することとし、9月以降に運営業務委託や警備・誘導業務委託などの式典開催に必要な契約を締結します。なお、昨年度からの内容変更は予算の範囲内に留めることを想定しているため、式典開催に要する経費は、昨年度と同程度になる見込みです。
事業の方向性・改善策	「二十歳のつどい」は民法改正により成人年齢が引き下げられた令和4年度より、それまでの「成人祝賀のつどい」から改名して実施しています。20歳という節目の年に改めて成人であることの自覚と自立を促し、次代を担う青年への期待と励ましを伝えることを目的に、成人の日の祝日に今後も式典を開催します。式典は、会場規模や参加者数のほか運営面での安全確保等からも、3回に分けての開催が適正と考えます。

令和8年度の方針（Action）

I. 事業コストの方向性	現状維持
I. 事業コストの方向性の理由	式典の開催に必要な運営業務委託と警備業務委託では、人件費が多くを占めているため、最低賃金が増額となった場合、委託内容が変わらなくてもその費用は増額します。式典は令和3年度より参加者を3回に分けて実施しており、会場規模や参加者の安全面を考慮すると適正な実施回数と考えています。また、式典に参加する当事者の意見を式典内容に反映する場合、支出を伴う意見が寄せられる場合もあることから、予算増額が必要となる可能性があります。
II. 事業の改善の方向性	現状維持
II. 事業の改善の方向性の理由	「二十歳のつどい」は連綿と継続しているものであり、性質上、抜本的な見直しが難しい事業です。業務委託の内容は、前回の実施結果を踏まえた軽微な見直しを毎年行っていますが、会場の変更が困難なことや、式典参加対象者数の大幅な増減が無いことから、今後も大きな変更は見込んでいません。また、引き続き、当事者の意見を式典に反映するための参加者ミーティングの開催など、式典内容・開催方法の充実に向けて検討します。

令和7年度 杉並区事務事業評価シート

事務事業名称	児童健全育成事業						款 04	項 02	目 01	事業 035	整理番号	246
現担当課名	児童青少年課				係名	子どもの居場所づくり担当			連絡先 電話番号	4402	昨年度 整理番号	254
上位施策No・施策名	19	子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分	既定事業		
事業開始	昭和41年度	実行計画事業	分野 06	施策 19	計画事業 01	主要事業（区政経営報告書掲載事業）						
令和6年度 担当課名	児童青少年課								事業評価区分	一般		

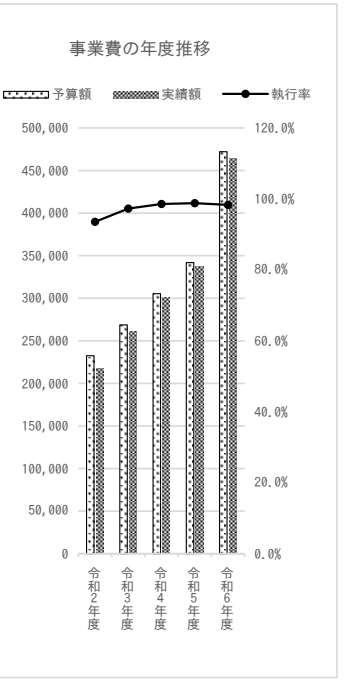
令和6年度 事務事業の概要（Plan）

対象	根拠法令等
18歳未満の児童及び保護者、児童の健全育成支援の活動を行う団体・個人等	児童福祉法第35条、同法第40条 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則等
事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	事業内容（事務事業の内容、やり方、手段）
○児童青少年センター、児童館及び子ども・子育てプラザにおける事業の充実を図り、児童の自主性、社会性、創造性等を培い、その健やかな成長を支援する。	○児童館、児童青少年センターの自由利用のほか、各種事業等を実施する。 ○子ども・子育てプラザでの各種講座や遊びのプログラム、情報提供及び利用相談を実施する。 ○乳幼児親子の居場所として、居心地の良い環境設定や親子間の相互交流促進を行う。 ○地域の行事や連絡会などの取組によるネットワークづくりを行う地域子育てネットワーク事業を実施する。 ○放課後等居場所事業を実施する。

指標、総事業費（Plan・Do）

指標名		指標説明	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	センター及び児童館数		館	計画	28	27	26	26
				実績	28	27	26	-
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	-
	子ども・子育てプラザ数		館	計画	6	7	7	7
				実績	6	7	7	-
成果指標	年間延べ利用者数（センター、児童館及び放課後等居場所事業）		人	計画	918,500	997,400	1,107,458	1,125,225
				実績	1,015,941	1,092,663	1,084,139	-
				達成率	110.6%	109.6%	97.9%	-
	分類 行政サービス成果指標		人	計画	202,500	254,360	301,920	301,920
				実績	217,940	286,825	301,802	-
				達成率	107.6%	112.8%	100.0%	-
	年間延べ利用者数（子ども・子育てプラザ）		人	計画	202,500	254,360	301,920	301,920
				実績	217,940	286,825	301,802	-
分類	行政サービス成果指標		人	計画	202,500	254,360	301,920	301,920
				実績	217,940	286,825	301,802	-

		単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費		千円	予算額	232,500	268,741	305,387	341,883	472,117	599,352
			実績額	217,486	261,420	301,036	337,785	464,179	-
			執行率	93.5%	97.3%	98.6%	98.8%	98.3%	-
人件費	常勤職員分（再任用含）	千円	予算額	1,147,600	1,088,454	1,119,300	1,140,801	1,152,807	1,107,470
			実績額	1,185,069	1,092,667	1,188,329	1,188,815	1,252,911	-
			執行率	103.3%	100.4%	106.2%	104.2%	108.7%	-
	上記以外の職員	千円	予算額	129,360	202,805	214,253	205,600	175,160	246,915
			実績額	181,400	216,825	213,324	186,543	227,507	-
			執行率	140.2%	106.9%	99.6%	90.7%	129.9%	-
総事業費 （事業費+人件費）		千円	予算額	1,509,460	1,560,000	1,638,940	1,688,284	1,800,084	1,953,737
			実績額	1,583,955	1,570,912	1,702,689	1,713,143	1,944,597	-
			執行率	104.9%	100.7%	103.9%	101.5%	108.0%	-
財源	受益者負担分	千円	予算額	0	0	0	0	0	0
			実績額	0	0	0	0	0	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	国・都からの補助金	千円	予算額	29,664	26,200	31,248	0	0	67,630
			実績額	30,708	37,891	41,359	0	48,769	-
			執行率	103.5%	144.6%	132.4%	-	-	-
	その他の補助金等	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	特定財源 （①+②+③）	千円	予算額	29,664	26,200	31,248	0	0	67,630
			実績額	30,708	37,891	41,359	0	48,769	-
			執行率	103.5%	144.6%	132.4%	-	-	-
差引：一般財源 （総事業費-特定財源）		千円	予算額	1,479,796	1,533,800	1,607,692	1,688,284	1,800,084	1,886,107
			実績額	1,553,247	1,533,021	1,661,330	1,713,143	1,895,828	-
			執行率	105.0%	99.9%	103.3%	101.5%	105.3%	-



特記事項

放課後等居場所事業の利用時間及び実施校の拡充等により、事業費が増加しました。

令和6年度 事業実施状況（Ｄｏ）				整理番号	246
内 容		規模	単位	事業費（千円）	
主な取組	児童青少年センター事業	1	館	2,033	
	児童館（ゆうキッズ含む）、子ども・子育てプラザ、地域子育てネットワーク事業	33	館	21,877	
	放課後等居場所事業	17	校	410,093	
	その他（ 管理運営費等				30,176
取組成果	<p>児童青少年センター、児童館及び子ども・子育てプラザにおける児童健全育成事業のほか、ゆうキッズ事業、地域子育てネットワーク事業を実施しました。</p> <p>また、子ども居場所づくりの取組について、子どもワークショップやオープンハウス型意見交換会を通じて、当事者である子どもや地域住民等の意見聴取を行い、令和7年1月に子ども居場所づくりの理念や基本的な視点、今後の取組の方向性を盛り込んだ「杉並区子ども居場所づくり基本方針」を策定しました。</p> <p>小学生の放課後等居場所事業は、令和6年4月から新たに杉並第七小学校及び久我山小学校で開始し、小学校全40校中17校での実施となりました。また、一部の小学校でも試行的に実施していた学校休業日（土曜日を除く）の利用時間の延長をすべての実施校に拡充したほか、子ども安全及び保護者の安心の向上を図るため、すべての実施校に入退室管理アプリケーションを導入しました。そのほか、令和7年4月に向けて、杉並第三小学校、桃井第一小学校及び吾掛小学校での放課後等居場所事業の準備を進めました。</p>				

	内 容	規模	単位	事業費（千円）
主な取組	児童青少年センター事業	1	館	2,033
	児童館（ゆうキッズ含む）、子ども・子育てプラザ、地域子育てネットワーク事業	33	館	21,877
	放課後等居場所事業	17	校	410,093
	その他（ 管理運営費等			30,176

[illegible]

課題の分析、方向性・改善策 (Check・Action)

課題の分析	<p>「杉並区基本構想」で定める子ども分野の将来像「すべての子どもが、自分らしく生きていくことができるまち」を実現するため、令和7年1月、子どもの居場所づくりの理念や基本的な視点、今後の取組の方向性などを盛り込んでいくこととし、「杉並区子どもの居場所づくり基本方針」を策定し、令和7年度以降、児童館の機能強化等の取組を進めていくこととした。</p> <p>子どもを取り巻く環境の複雑化や居場所に対する多様なニーズに対応し、子どもの健全育成支援の充実を図っていき、子どもたちの居場所づくり基本方針に基づき、すべての子どもが成長段階に応じた安心して過ごせる居場所づくりの取組を進めていく必要があります。</p> <p>放課後等居場所事業の全校実施に向けては、学校、関係団体、地域の方の事業への理解・協力が必要不可欠であることから、令和8年度、令和9年度各10校の開始に向けて、学校・地域への説明を丁寧に行っていく必要があり、また、中・高校生機能優先館を含めた児童館の機能強化の検討に当たっては、当事者である子どもたちの意見を聴きながら、子どもの視点に立って進めていく必要があります。子どもたちが意見を言いやすい環境設定の工夫や配慮を行い、実施する必要があります。</p>
現年度の取組成果・予算執行状況（年度末までの見込み含む）	<p>年度を通じて、児童青少年センター、児童館及び子ども・子育てプラザにおける児童健全育成事業のほか、ゆうキッズ事業、地域子育てネットワーク事業を実施しています。</p> <p>また、小学生の放課後等居場所事業は、令和7年4月から新たに杉並第三小学校、桃井第一小学校、沓掛小学校で開始するとともに、令和8年4月に向けて西田小学校外9校での開始準備を進めています。</p>
事業の方向性・改善策	<p>児童館や子ども・子育てプラザでは安全・安心な居場所の提供のほか、子ども達が成長段階に応じた豊かな遊びや多種多様な経験等を通じて自主性や社会性を育むことができる活動を展開し、子どもの健全な成長や子育て力の向上を引き続き支援します。</p> <p>また、令和7年1月に策定した「杉並区子どもの居場所づくり基本方針」に基づき、令和9年度までに放課後等居場所事業をすべての小学校に段階的に拡充していく等、より良い子どもの居場所づくりを推進します。</p>

令和8年度の方針 (Action)

Ⅰ.事業コストの方向性	拡充
Ⅰ.事業コストの方向性の理由	放課後等居場所事業を令和8年度に10校、9年度に9校で開始する予定であることなどから、事業コストの増を見込んでいます。
Ⅱ.事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
Ⅱ.事業の改善の方向性の理由	「杉並区子どもの居場所づくり基本方針」に基づく子どもの居場所づくりの取組を着実に進め、子どもの成長過程に応じた多様な居場所づくりを推進します。

1. 事業コストの方向性の理由	放課後等居場所事業を令和8年度に10校、9年度に9校で開始する予定であることなどから、事業コストの増を見込んでいます。
-----------------	---

Ⅱ.事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
-------------	---------------

<p>II. 事業の改善の方向性の理由</p>	<p>「杉並区子どもの居場所づくり基本方針」に基づく子どもの居場所づくりの取組を着実に進め、子どもの成長過程に応じた多様な居場所づくりを推進します。</p>
-------------------------	--

令和7年度 杉並区事務事業評価シート

事務事業名称	次世代育成基金の運営							款	04	項	02	目	01	事業	050	整理番号	253
現担当課名	児童青少年課				係名		青少年係		連絡先電話番号			4402		昨年度整理番号	261		
上位施策No・施策名	19	子どもの居場所づくりと育成支援の充実									予算事業区分		既定事業				
事業開始	平成24年度	実行計画事業		分野	06	施策	19	計画事業	02								
令和6年度担当課名	児童青少年課									事業評価区分		一般					

令和6年度 事務事業の概要（Plan）

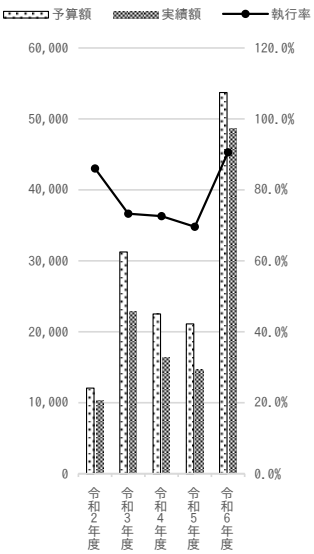
対象	根拠法令等
区内の小・中・高校生、支援する大人	杉並区次世代育成基金条例 杉並区次世代育成基金推進会議設置要綱
事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	事業内容（事務事業の内容、やり方、手段）
○子どもたちが、国内外の文化・芸術・自然に触れ、またはスポーツ・交流に参加する機会を創出するため 基金を運営する。 ○基金への理解・賛同を得られるよう周知し、募金の呼びかけを図る。	○区内の小・中・高校生を対象とした国内外の体験・交流事業等の実施に対し、子どもの参加に係る経費の2分の1を基金から充当する。 ○基金の趣旨を広く区民に周知し、寄附を募る。 ○各種イベント会場等で募金活動を実施する。

指標、総事業費（Plan・Do）

指標名		指標説明	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	基金活用事業の実施件数	区主催と民間提案事業助成による基金活用事業の件数	件	計画	12	12	12	13
				実績	11	12	13	-
				達成率	91.7%	100.0%	108.3%	-
	次世代育成基金への募金活動数		回	計画	13	13	13	13
				実績	20	14	17	-
達成率				153.8%	107.7%	130.8%	-	
成果指標	基金活用事業の参加児童・生徒数	各事業の参加人数の合計	人	計画	758	717	935	605
				実績	673	732	607	-
				達成率	88.8%	102.1%	64.9%	-
	分類	行政サービス成果指標						
	次世代育成基金への寄附総額	募金額を含む	千円	計画	10,000	10,000	10,000	10,000
				実績	9,774	7,523	39,575	-
				達成率	97.7%	75.2%	395.8%	-
分類	行政サービス成果指標							

		単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費		千円	予算額	12,063	31,249	22,513	21,109	53,720	26,073
			実績額	10,378	22,901	16,344	14,693	48,663	-
			執行率	86.0%	73.3%	72.6%	69.6%	90.6%	-
人件費	常勤職員分（再任用含）	千円	予算額	8,718	11,904	8,343	9,982	10,045	8,556
			実績額	6,972	7,342	8,318	7,199	9,240	-
			執行率	80.0%	61.7%	99.7%	72.1%	92.0%	-
	上記以外の職員	千円	予算額	1,232	3,628	3,675	3,678	3,807	4,643
			実績額	3,628	4,043	2,575	3,046	2,322	-
			執行率	294.5%	111.4%	70.1%	82.8%	61.0%	-
総事業費（事業費+人件費）		千円	予算額	22,013	46,781	34,531	34,769	67,572	39,272
			実績額	20,978	34,286	27,237	24,938	60,225	-
			執行率	95.3%	73.3%	78.9%	71.7%	89.1%	-
財源	受益者負担分	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	国・都からの補助金	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	その他の補助金等	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	特定財源（①+②+③）	千円	予算額	0	0	0	0	0	-
			実績額	0	0	0	0	-	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
差引：一般財源（総事業費-特定財源）		千円	予算額	22,013	46,781	34,531	34,769	67,572	39,272
			実績額	20,978	34,286	27,237	24,938	60,225	-
			執行率	95.3%	73.3%	78.9%	71.7%	89.1%	-

事業費の年度推移



特記事項

いただいた寄附を基金に積み立てるには寄附受領額と同額を支出する必要があります。
また、令和6年度は高額な寄附が2件あったため、過去最高額を受領しました。このため、成果指標にある「次世代育成基金への寄附総額」の計画値を大きく上回りました。

令和6年度 事業実施状況（Ｄｏ）			整理番号	253
主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	基金の積立	1	回	42,645
	基金活用事業助成金の交付	5	件	5,036
	次世代育成基金活用事業実施報告書の作成	7,500	部	333
	次世代育成基金募集案内チラシ等印刷物の作成	19,500	部	297
	その他（ 啓発用消耗品の購入ほか		）	352
取組成果	平成24年度の基金創設からこれまでに延べ110以上の事業で基金を活用し、延べ6,537名の児童・生徒に貴重な体験・経験の機会を提供してきました。令和6年度は区主催で8事業、助成制度により採択した民間事業者主催の事業を5事業実施し、延べ607名の児童・生徒が参加しました。また、案内リーフレットの区内全域配布や寄附者への事業報告書の配布、駅頭募金活動を行うなど基金の周知や寄附勧奨に取り組んだ結果、過去最高の受領額となる1,907件／39,574,831円のご寄附をいただきました。			

課題の分析、方向性・改善策（Check・Action）

課題の分析	次世代育成基金は次世代を担う子どもに対して交流や体験等様々な事業への参加を支援し、その健やかな成長を図ることを目的に平成24年度の区独自の制度として創設され、この基金を活用することでこれまでに多くの子どもが様々な体験活動の機会を高く提供できたと考えています。現在はそのほとんどで定員を超える申込みがあるなど、基金活用事業の認知度も高まってきたことから、今後は基金活用事業の実施内容や参加要件等にも、子ども意見の反映できる仕組みを検討していくこととします。また、基金創設以来、制度の周知や寄附勧奨に取り組んできたことで、累計2億円、年平均1,500万円ほどのご寄附をいただくまでに成長し、制度の認知が進むと共に寄附の裾野は確実に広がっていると認識していますが、年によっては平均額を大きく下回ることもあり、今後も継続して普及啓発に取り組む必要があります。
現年度の取組成果・予算執行状況（年度末までの見込み含む）	令和7年度に予定している基金活用事業は全13事業で、合計29,198千円を活用して600人を超える区内の児童・生徒に貴重な体験や経験の機会を提供する予定です。そのうち5事業は、審査会を経て採択を決定した民間団体等が実施する事業への助成制度によるもので、7,506千円を助成することで220人が事業に参加できる予定です。一方で、区立学校への周知方法が変更されたことによる周知が行き届かない状況は今年度も変わらず、特に民間団体等が実施する事業では、当初の募集期間では定員に達しない場合もあり、募集期間の延長や事業内容の変更などが必要となり、実施団体への負担も生じています。寄附等による受領額は、7月末時点で既に116件、12,198千円となり、これは高額寄附を受けたことや、新たに取り組んだ区内全域への周知チラシ送付による成果と捉えています。今後も11月には周知チラシ等を作成して区内全域の町会・自治会等で掲示や回覧を行うほか、敬老会や新年賀詞交歓会の会場、荻窪駅頭での周知・募金活動を予定するなど、普及啓発を継続していきます。
事業の方向性・改善策	基金への寄附件数と寄附額は概ね一定数を維持していることから、区内における基金の認知度は高い状態を維持できているものと評価しています。基金を持続可能なものとするためには、今後も多くの方に本基金の趣旨をご理解いただき、長期的なご支援を受けられる仕組みが必要なことから、様々な方法や手段を検討し、幅広い世代への普及啓発の取組を進めます。一方で、基金を活用した事業への参加者数は、区立学校への周知方法が変更されて以降、特に民間団体等が実施する事業では、定員に達しないことが増えています。基金を有効に活用するためにも、事業の開催周知や参加者募集の方法に一層の工夫を図る必要があります。また、子ども意見の権利に関する条例が制定されたことなどを踏まえ、基金活用事業の実施内容や参加要件等にも子どもの意見を反映できる仕組みを検討します。

令和8年度の方針（Action）

I. 事業コストの方向性	現状維持
I. 事業コストの方向性の理由	基金の設置目的を果たすためには毎年安定した寄附額を確保する必要があり、引き続き基金趣旨の一層の周知と、寄附募集の取組を推進する必要があります。一定額以上の寄附者には成果報告として基金を活用した事業の報告書等を送付しているため、寄附者が増えることで、報告書等の作成費及び郵送費も増加することとなりますが、継続的にご支援いただくためには成果報告は必要なものと考えています。引き続き、より効率的・効果的な周知方法を検討しながら寄附勧奨の取組を進めます。また、これまでの基金の活用方法や内容を踏まえながら、活用方法等の見直しを行うこととしているほか、子どもの権利に関する条例が制定されたことから、基金活用事業の実施内容や参加要件等にも子どもの意見を反映できる仕組みを検討が必要であり、その結果によっては事業コストが増加する可能性があります。
II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・対象の見直し
II. 事業の改善の方向性の理由	基金創設から10年以上が経過しており、これまでの基金の活用方法や内容を踏まえながら、活用方法等の見直しを行うこととしているほか、子どもの権利に関する条例が制定されたことから、基金活用事業の実施内容や参加要件等にも子どもの意見を反映できる仕組みを検討します。

令和7年度 杉並区事務事業評価シート

事務事業名称	子どもプレーパーク事業						款 04	項 02	目 01	事業 063	整理番号	260
現担当課名	児童青少年課				係名				連絡先 電話番号		昨年度 整理番号	268
上位施策No・施策名	19	子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分		既定事業	
事業開始	平成27年度				分野 06	施策 19	計画事業					
令和6年度 担当課名	児童青少年課							事業評価区分		一般		

令和6年度 事務事業の概要（Plan）

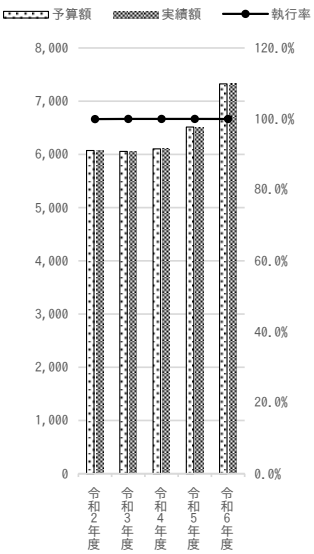
対象	根拠法令等
児童	杉並区子どもプレーパーク事業実施要綱
事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	事業内容（事務事業の内容、やり方、手段）
○区立公園等において、自由な遊びの場を提供し、火おこしや水遊び、木登りなどの体験を通じて、子どもたちの自主性や社会性、創造力を育み、地域社会の中で健やかな成長を推進する。	○自由な遊びの場を提供する。 ○火おこし、水遊び、木登り、工作等の子どもの活動・遊びを支援する。 ○地域住民の交流活動等の場を提供する。

指標、総事業費（Plan・Do）

指標名			指標説明	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	プレーパーク実施回数			回	計画	72	72	76	100
					実績	62	66	72	-
					達成率	86.1%	91.7%	94.7%	-
				計画	-	-	-	-	
				実績	-	-	-	-	
達成率				-	-	-	-		
成果指標	プレーパーク参加者数			人	計画	14,000	15,000	15,200	20,000
					実績	15,566	15,739	15,853	-
					達成率	111.2%	104.9%	104.3%	-
	分類	行政サービス成果指標							
				計画	-	-	-	-	
				実績	-	-	-	-	
				達成率	-	-	-	-	
分類									

		単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費		千円	予算額	6,073	6,056	6,104	6,514	7,325	9,321
			実績額	6,070	6,056	6,104	6,514	7,324	-
			執行率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-
人件費	常勤職員分 （再任用含）	千円	予算額	1,744	1,701	1,669	1,664	1,925	2,139
			実績額	1,701	1,669	1,664	1,925	2,225	-
			執行率	97.5%	98.1%	99.7%	115.7%	115.6%	-
	上記以外の職員	千円	予算額	0	0	0	0	0	0
			実績額	0	0	0	0	0	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
総事業費 （事業費+人件費）		千円	予算額	7,817	7,757	7,773	8,178	9,250	11,460
			実績額	7,771	7,725	7,768	8,439	9,549	-
			執行率	99.4%	99.6%	99.9%	103.2%	103.2%	-
財源	受益者負担分	千円	予算額	0	0	0	0	0	0
			実績額	0	0	0	0	0	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	国・都からの 補助金	千円	予算額	0	3,027	3,830	3,257	3,684	4,660
			実績額	3,021	3,028	3,052	3,257	3,662	-
			執行率	-	100.0%	79.7%	100.0%	99.4%	-
	その他の 補助金等	千円	予算額	0	0	0	0	0	0
			実績額	0	0	0	0	0	-
			執行率	-	-	-	-	-	-
	特定財源 （①+②+③）	千円	予算額	0	3,027	3,830	3,257	3,684	4,660
			実績額	3,021	3,028	3,052	3,257	3,662	-
			執行率	-	100.0%	79.7%	100.0%	99.4%	-
差引： 一般財源 （総事業費-特定財源）		千円	予算額	7,817	4,730	3,943	4,921	5,566	6,800
			実績額	4,750	4,697	4,716	5,182	5,887	-
			執行率	60.8%	99.3%	119.6%	105.3%	105.8%	-

事業費の年度推移



特記事項

令和6年度 事業実施状況（D o）				整理番号	260
主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）	
	子ども プレーパーク事業委託費の支出	1	団体	7,324	
	その他（		）	0	
取組成果	平成30年度から委託事業として実施し、区立公園等を会場としたプレーパーク「杉並冒険遊び場」を開催しました。 （柏の宮公園36回、5,685人参加、井草森公園28回、7,744人参加、その他の公園8回、2,424人参加） 天候の影響で中止となる回もありましたが、前年度と比較し参加者は114人増えました。				

課題の分析、方向性・改善策（Check・Action）

課題の分析	<p>区とNP0法人との協働提案事業として平成27年7月から事業を開始し、利用者から継続を望む声を多くいただいたことなどを踏まえ、平成30年度から、区の委託事業として子どもプレーパーク事業を実施しています。井草森公園及び柏の宮公園を毎月数回開催する固定の会場とすることで地域への定着を図るとともに、区内各所の公園等で年間6回程度の出張プレーパークを開催することで、ニーズに応じた柔軟な対応を図っています。令和6年度は、区民要望等を踏まえ、新たに桃井原っぱ公園で出張プレーパークを実施しました。平成27年度から令和6年度までに、延べ589回、120,438人が参加し、直近3年度間の実施状況は以下のとおりとなっています。</p> <p>【実施回数及び参加者】 令和4年度：62回、15,566人 令和5年度：66回、15,739人 令和6年度：72回、15,853人 参加した児童の関係者からは、「普段の公園の利用の中では得られない貴重な体験の場になった」、「実施会場や開催日を増やしてほしい」といった意見が寄せられており、より多くの方に利用してもらえるよう開催場所、頻度など、子どもの体験の機会をどのように確保していくかが課題です。</p>
現年度の取組成果・予算執行状況（年度末までの見込み含む）	<p>井草森公園及び柏の宮公園に加え、令和7年度から馬橋公園で定期的で開催しています。馬橋公園においては以前より出張プレーパークを実施していたこともあり、当初より多くの方に参加いただいています。引き続き地域への定着を図っていきます。</p> <p>令和7年7月31日時点で、井草森公園で10回、柏の宮公園で13回、馬橋公園で9回、出張プレーパークを3回実施し、参加者は7,362人で、昨年同期比の参加者数を上回っており、令和6年度の年間参加者数を上回ると見込んでいます。</p>
事業の方向性・改善策	<p>令和7年度も現時点ですでに多くの方に参加いただくなど、好評を得ている事業であることから、引き続き参加者の満足を得られるよう事業を継続していきます。</p> <p>また、今年度から実施回数を増やしていることから、参加者がより安全・安心に利用できる環境を整えるなど質の高い事業を安定的に提供できるよう取り組んでいきます。さらに、子どもの体験の機会を確保するなど、本事業の充実に向けて検討します。</p>

令和8年度の方針（Action）

Ⅰ.事業コストの方向性	現状維持
Ⅰ.事業コストの方向性の理由	<p>公園を活用した子どもプレーパーク事業は、子どもの貴重な体験の場としてその充実を求める声が多数寄せられていたことから、令和7年度に常設プレーパークを新たに実施しました。</p> <p>令和8年度は、事業目的に対して、現在の事業の枠組みのなかで事業を継続させていくことが妥当であることから、現状維持とします。</p>
Ⅱ.事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
Ⅱ.事業の改善の方向性の理由	<p>本事業を充実させていくためには、公園管理所管との連携や、他自治体の取組を研究するなど、実施方法の見直しが必要です。</p>

令和7年度 杉並区事務事業評価シート

事務事業名称	児童青少年センター・児童館等の維持管理							款 04	項 02	目 02	事業 002	整理番号	279
現担当課名	児童青少年課					係名	管理係			連絡先 電話番号	03-3393-4760	昨年度 整理番号	284
上位施策No・施策名	19	子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分		既定事業		
事業開始	昭和41年度	実行計画事業		分野	06	施策	19	計画事業	01	05	主要事業（区政経営報告書掲載事業）		
令和6年度 担当課名	児童青少年課								事業評価区分		施設維持管理		

令和6年度 事務事業の概要（Plan）

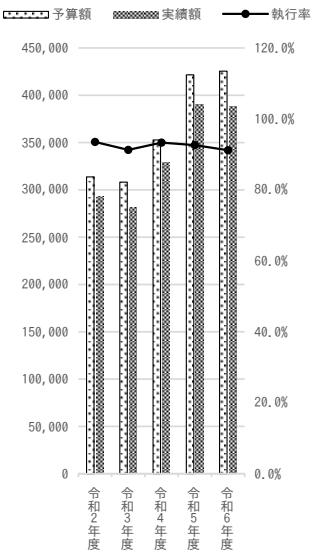
対象	根拠法令等
児童青少年センター、児童館、子ども・子育てプラザ、学童クラブの各施設	児童福祉法第35条、同法第45条 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則
事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	事業内容（事務事業の内容、やり方、手段）
○施設の実情にあわせた修繕や設備等の整備を適切に行い、安全・安心で快適に利用できる施設を維持することで、児童の健全育成支援の充実を図る。	○施設の保守点検、小規模修繕を行う。 ○施設の設備、維持管理物品等を購入する。 ○施設の光熱費等公共料金を支払う。

指標、総事業費（Plan・Do）

指標名		指標説明	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標				計画	-	-	-	-
				実績	-	-	-	-
				達成率	-	-	-	-
				計画	-	-	-	-
				実績	-	-	-	-
				達成率	-	-	-	-
成果指標	分類			計画	-	-	-	-
				実績	-	-	-	-
				達成率	-	-	-	-
				計画	-	-	-	-
				実績	-	-	-	-
				達成率	-	-	-	-

		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
事業費		千円	予算額 実績額 執行率	313,705 293,348 93.5%	308,186 281,284 91.3%	352,763 329,218 93.3%	421,578 390,439 92.6%	425,482 387,922 91.2%	468,313 - -		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	千円	予算額	183,950	170,910	178,540	181,332	199,550	194,337		
			実績額	182,134	175,203	185,491	198,242	207,545	-		
			執行率	99.0%	102.5%	103.9%	109.3%	104.0%	-		
	上記以外の職員	千円	予算額	3,080	3,991	3,675	3,678	3,579	5,061		
			実績額	3,628	3,675	3,678	3,807	4,643	-		
			執行率	117.8%	92.1%	100.1%	103.5%	129.7%	-		
総事業費 (事業費+人件費)		千円	予算額 実績額 執行率	500,735 479,110 95.7%	483,087 460,162 95.3%	534,978 518,387 96.9%	606,588 592,488 97.7%	628,611 600,110 95.5%	667,711 - -		
財源	受益者負担分 ①	千円	予算額 実績額 執行率	1,714 1,589 92.7%	3,250 1,213 37.3%	2,358 3,430 145.5%	0 0 -	0 3,215 -	2,889 - -		
			国・都からの 補助金 ②	千円	予算額 実績額 執行率	15,718 36,581 232.7%	18,758 41,945 223.6%	30,488 49,214 161.4%	0 0 -	0 155,156 -	88,368 - -
					その他の 補助金等 ③	千円	予算額 実績額 執行率	0 0 -	0 0 -	0 0 -	0 0 -
	特定財源 (①+②+③)	千円					予算額 実績額 執行率	17,432 38,170 219.0%	22,008 43,158 196.1%	32,846 52,644 160.3%	0 0 -
			差引： 一般財源 (総事業費-特定財源)	千円			予算額 実績額 執行率	483,303 440,940 91.2%	461,079 417,004 90.4%	502,132 465,743 92.8%	606,588 592,488 97.7%

事業費の年度推移



特記事項

令和6年度 事業実施状況（Ｄｏ）				整理番号	279
主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）	
	施設保守管理委託	63	所	222,735	
	施設修繕	63	所	38,710	
	光熱水費の支出			99,615	
	建築工事	1	所	1,300	
	その他（ 電話料・手数料・備品購入等			25,562	
取組成果	各施設を安全・快適に利用できるよう、施設保守管理委託契約に加え、計画的な備品・消耗品の購入や迅速かつ効率的な施設・設備の修繕を行い、適切な維持管理に努めました。また、学童クラブの受入数の拡大に伴い、ランドセルロッカーの増設など、育成環境の整備を図りました。施設修繕に当たっては、将来的な大規模修繕の計画や関連諸室の改修等の予定を確認し、工事内容が重複しないよう計画的な修繕を進めました。				

課題の分析、方向性・改善策（Check・Action）

課題の分析	
現年度の取組成果・予算執行状況（年度末までの見込み含む）	設備保守管理・清掃業務委託、計画的な修繕等により引き続き安全・安心な施設環境の維持に取り組めます。
事業の方向性・改善策	経年劣化した施設の保全・管理や学童クラブ需要増に伴う育成環境の整備に対し、緊急度や優先度等を考慮して計画的に取り組む、適切な施設の維持管理に努めます。 また、令和7年1月に策定した「杉並区子どもの居場所づくり基本方針」に基づき、存置することとした児童館の改修や新たな児童館の整備等にも取り組んでいく必要があります。

令和8年度の方針（Action）

I. 事業コストの方向性	拡充
I. 事業コストの方向性の理由	学童クラブの整備による施設数の増に加え、施設の老朽化に伴う屋上防水の劣化による漏水、床材や内壁の剥離、設備面ではトイレの排水不良、冷暖房設備の故障をはじめとする修繕需要の高まりなどによる事業コストの上昇が見込まれることから、安心・安全な施設環境の維持に必要な経費を適切に予算化する必要があります。 また、老朽化した児童館の改修及び児童館の新設には多額の経費を必要とするため、中・長期的な視点で計画化・予算化する必要があります。
II. 事業の改善の方向性	対象の見直し
II. 事業の改善の方向性の理由	施設の安全性の確保を最優先としながらも、コストの二重投資（修繕と改修が短期的に行われるなど）が生じないように留意していく必要があります。